

ビジネス情報科・ビジネス科 3年A・B・C・D組（全コース）

教科名	国語	科目名	国語表現（3単位）
使用教科書	国語表現（東京書籍）	副教材等	常用漢字ダブルクリア（尚文出版） 小論文チャレンジノート1・2（第一学習社） （共に前年度から継続使用）

1 科目のねらい（目標）

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

2 科目・授業の内容と進め方

<p>話し言葉と書き言葉の特徴や役割、論理の展開や表現の仕方等に関する学習と、実際にそれらの知識や技能を用いる演習とを年間を通して繰り返し行います。目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現を使い分け、実社会における他者との多様な関わりを通して自らの考えを広め深められるようになることを目指します。</p>
--

3 学習の方法

<ul style="list-style-type: none"> 辞書を使つての意味調べや漢字練習については、家庭で学習をしましょう。 課題文や資料、教師の質問、他の生徒の意見に対して自分の考えをしっかりと持ち、相手に自分の考えを正確に伝えるための知識や技術を磨きましょう。 ノートやワークシートは、黒板に書いてあることを写すだけでなく、自分の考えや大切だと思われることをしっかりと記録し、自分だけの参考書になるようにしてください。 日頃から、新聞やニュース等に意識的に触れ、絵・写真のない文章にも親しみましょう。

4 課題・補習について

<ul style="list-style-type: none"> 様々な形式で、自分の考えや思いを表現する課題を出します。 定期的にノート・ワークシート・ワーク等の点検を行います。 努力を怠っている生徒に対しては、補充授業、追試験、課題などを課します。

5 観点別学習状況の評価ポイント

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けしている。 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと」においては、自分の思いや考え、主張が伝わるよう、相手の反応を想定して論理の展開や具体例を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 「聞くこと」においては、論点や視点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広めたり深めたりしている。 「書くこと」においては、読み手の共感や同意を得ることや自分の考えや事柄を的確に説明することを意識し、論理の展開、文章の構成、表現や説明の仕方などを考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えについて、表現に工夫してスピーチや記述、発表等を行っている。また、他者の考えを聞いて、同意したり質問したり、論拠を示して反論したりして、多様な考えに触れ、議論を深めようとしている。

ビジネス情報科・ビジネス科 3年A・B・C・D組 (全コース)

教科名	国語	科目名	国語表現 (3単位)
-----	----	-----	------------

6 年間の学習計画

月	単元名	学習の内容(ねらい)	評価方法(課題等)
4 5	表現とは何か	・さまざまなゲームに取り組むことで、表現を学ぶ際に重要なことを体験的に知る。	・授業態度 (発言・予習等) ・課題 (表現課題 ・ワークシート・ノート ・ワーク等) 前期中間考査
	1 分かりやすく説明しよう 〈情報の整理・伝達〉	・情報を整理し、相手、内容、目的、状況に応じて、分かりやすく伝える方法を考える。 ・学習を通じ得られた知識や技術を、状況に応じて使えるよう実践する。	
	2 身体で表現しよう	・自分の身体が表現しているものについて考えを深める。 ・演劇的な活動に取り組み、自分の身体を効果的に使って表現するスキルを身に付ける。	
6 7	3 「問い」を考えよう 〈インタビュー〉	・問う力、質問力が他者の表現および思考の質に大きくかわることを認識し、その種類や機能を学び、活用法を習得する。 ・インタビューを実践することで、問い・質問のもつ力やその意義、重要性を体験的に学習するとともに、インタビューを文章で再現することで構成力や表現力を養う。	・授業態度 (発言・予習等) (表現課題 ・ワークシート・ノート ・ワーク等)
	4 「自分」を表現しよう 〈面接・自己PR〉	・自己分析を行い、第三者の意見もふまえて、客観的に「自分」を把握する。 ・志望理由書・履歴書の作成、模擬面接などで、相手に伝わるように「自分」を表現する。	
8 9	5 論理的な文章を書こう 〈小論文〉	・小論文を書くことを通して、与えられたテーマに対して自分の考えを明確にする力と、論理的で説得力のある文章を書く力を身に付ける。 ・現代社会のトピックに対して、問題発見・課題分析を行い、問題解決能力を養う。	
10 11	6 話し合う力をつけよう 〈ファシリテーション〉	・合意形成を目的とする話し合いの展開パターンと、それを支えるファシリテーションの概念および基本的なスキルを学ぶ。 ・災害避難所におけるコミュニケーションのコンフリクトを描いた脚本をもとに、協働的問題解決を目指す話し合いをシュミレーションする。	・授業態度 (発言・予習等) (表現課題 ・ワークシート・ノート ・ワーク等)
	7 情報活用力を身につけよう 〈広報資料〉	・正確な情報を見極め、その情報を目的に合わせて効果的な表現で発信する。 ・相手意識を持ち、相手にとって有用な内容や理解しやすい表現を吟味する。	
12			・授業態度 (発言・予習等)
1 2	8 説得力のある提案をしよう 〈プレゼンテーション〉	・プレゼンテーションで心を動かすのに必要な身体表現(発声・身振り)や態度などについて学び、説得力のある表現について理解する。 ・フィードバックで他者の意見を取り入れることで、相手の心を動かすよりよい表現を目指す。	(表現課題 ・ワークシート・ノート ・ワーク等)
	9 表現を楽しもう 〈創作〉	・俳句、短歌、エッセイ、物語など、いろいろなジャンルの作品創作を通じて、言葉を用いて表現することを楽しむ。 ・読み手に伝わるよう、表現を効果的に工夫し、自分ならではの作品を創作する。	